

2020年度 第2回 学校教育事業委員会 記録

日 時：2020年10月27日（火）

午後6時30分～8時30分

Zoomでのオンライン会議

I. 出席予定者

林 敬子（長）、岩本 哲人、岩野 祐介、迫原 三重、土肥 伊都子、
中出 恵子、中畠 孝幸、濱瀬 眞知子

（以上委員）

松田 道子（担当理事）

高等学院担当職員 櫻井 英治、川北 陽子

専門学校担当職員 田村 光、鐘 瑋悦、古谷 茉穂、坂本 孝司（担当主事）

（以上職員）

I. 欠席者

海老 直人（副）

（以上職員）

I. 聖書朗読

詩編 36 編 10 節 「命の泉はあなたにあり あなたの光に、わたしたちは光を見る」

（2020 年神戸 YMCA 年間聖句）

I. 開会祈祷

坂本氏より開会祈祷がなされた。

I. 議題

1. 神戸YMCA全体報告

松田氏より以下のとおり報告がなされた。

- ・コロナウイルス感染症拡大の影響で、本年度の神戸 YMCA 総会が書面決議をもって新しい年度をスタートすることが出来た。三宮会館の再開発を実施したことによって、2017 年から 3 年に渡り、黒字で事業を実施することができた。
- ・神戸 YMCA では、コロナウイルス感染症拡大の影響を年度末にうけたが、学校教育事業は感染症対策を行いながら学事歴を終えることができた。その後、とりわけ神戸 YMCA 学院専門学校日本語学科については、より大きな影響を受けており、新入生が来日できないという状況である。
- ・今年度 2020 年度については、休業を含め、予算執行状況が大変厳しく、負債を大きくしている状況にある。次年度も引き続き厳しい状況にあり、次年度の運営について継続検討中である。
- ・例年秋に実施していたチャリティランや各拠点でのバザーなどのチャリティイベントは、殆ど中止としているが、西神戸ブランチについては、オンラインでワイワイまつりを実施することができた。

2. 委員長、副委員長の改選

・委員長と副委員長の改選について協議を行なった結果、2020 年度神戸 YMCA 教育事業委員会委員長を濱瀬眞知子委員に、そして副委員長を海老直人委員に担っていただくことで議場一致で決定した。

（以上決議）

3. 2020年度各校の状況報告

1) 高等学院について

別紙のように、櫻井氏から高等学院の広報について報告があった。

- ・5月1日現在、51名。2名退学。3名転学。（1名大阪本校、2名N高等学校）であった。
- ・9月30日付で1名が卒業し、パイロットを目指して勉強をしている。
- ・8月に1名、10月に3名が編入し、生徒数は10月1日現在49名となっている。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、休校があったため、例年実施していた高校訪問ができないと予測し、WEB 広報に主軸に置く広報に切り替えて、リスティング広報とリマーケティング広告を7月から12月まで行っている。保護者が学校を探していることを仮定して、朝の時間、夕方から夜の時間帯にかけて広告が出やすいようにし、エリアは神戸市と明石市に注力している。またモバイルファーストを意識して、スマートフォンで検索しやすいランディングページを作成した。
- ・11月14日（土）中出先生のご協力を得て、オープンハイスクールを実施する予定である。

学生および学校の状況について、川北氏から報告があった。

- ・6月22日より対面授業開始し、例年より3週間遅れで夏季授業を行い、正規の授業を終えることができた。
- ・状況に応じて、クラスの人数を分けてオンラインで授業を実施した。前期修了礼拝・後期開講礼拝は、教室を分けリモートを利用して開催することができた。
- ・3年生の進路状況は、レジュメの通りである。専門学校の合格者3名が合格と記載しているが、さらに1名の合格が決定した。徐々に決まりつつある。
- ・アンケートには、リモートについては最初の段階では音声が聞きにくいなどあったが、自宅での課題も前向きに取り組んでくれた印象である。
- ・学生からはいい体験が出来たという声もあった。
- ・休校が理由となる精神的な影響は少ないと思われるという保護者の声があったが、これからの状況を見ていく必要がある。
- ・対面授業になることによってリズムがかわってしまうということが実際にはあった。
- ・今後、これから新型コロナウイルス感染症の影響が見え始めるのではないかな。
- ・2年生は、2極化している現状がある。しっかり登校できる生徒と、また違うことに興味が出てくる学生がいる。
- ・3年生は余裕がでているものの、今後（卒業後）の不安はある。
- ・退学2名は通えない生徒であった。このような学生に対し、どう寄り添っていくか？

学生および学校の状況について、川北氏から報告があった。

- ・6月22日より対面授業開始し、例年より3週間遅れで夏期授業を行い、前期の授業を終えることができた。
- ・状況に応じて、クラスの人数を分けたり、オンラインを用いたりして授業を実施した。前期終了礼拝は、リモートを利用して開催することができた。
- ・3年制の進路状況は、1名専門学校の合格が決定し、徐々に決まりつつある。
- ・アンケートには、リモートについては最初の段階では音声が聞きにくいなどあったが、自宅での課題も前向きに取り組んでくれた印象である。
- ・学生からはよい体験が出来たという声もあった。
- ・休校が理由となる精神的な影響は少ないと思われるという保護者の声があったが、これからの状況を見ていく必要がある。
- ・対面授業になることによってリズムがかわってしまうということが実際にはあった。
- ・今後、これからの新型コロナウイルス感染症の影響が見え始めるのではないかな。
- ・2年生は、2極化している現状がある。しっかり登校できる生徒と、また違うことに興味が出てくる学生がいる。
- ・3年生は余裕がでているものの、今後の不安はある。
- ・退学2名は通えない生徒であった。このような学生に対し、どう寄り添っていくか？等課題がある。

中出委員より

授業には全て出席をしているのにレポートが出せずに単位認定できない学生がいた。新型コロナウイルスの影響によって、通常であれば1週間ごとにレポートの時間を共にすることができたが、再開後、授業中心で行ったため、時間を取れなかったということが、これに大きく影響している。後期になり、コロナ以前の形に戻り、一緒にレポート作成をしたら、授業についていけなかった生徒も粘り強く取り組み、レポートを提出することができた。生徒の特性にあった対応のシステムを整えておくことが重要である。

2) 専門学校

ホテル学科の現状について、主任の古谷氏から報告資料をもとに報告があった。

- ・4名の退学者が出ている。前期は予定していたオリエンテーションキャンプ、ホテルでの授業などの活動はできなかった。それぞれ代替えプログラムを実施している。
- ・夏期実習は、1年生は見送り、2年生のみ実施を行なった。神戸のシティホテル、三重県、滋賀県など7カ所の企業に受け入れていただいた。
- ・海老副委員長にホテル研修を行っていただいた。
- ・ホテルの一連のサービスについて、オンライン動画を作成した。
- ・現在冬期実習に関しての面接を実施中であるが、ワンデ이의インターンシップを体験した学生については、モチベーションも高く、この体験が好影響を及ぼしている。
- ・7名の就職が決定したが、状況としては非常に悪い状態ではあるが、10月に入り、企業の採用活動も動きが出てきている様子である。
- ・出席に不安を覚えている学生が出てきている。
- ・前期の試験実施後、1名分の解答用紙の紛失が起こった。再発防止策を協議し、ホテル学科学生、保護者、教職員全員に報告を行なった
- ・募集について、月に1回オンラインのオープンキャンパスを実施して、地方からの募集が増加している。遠方の方の面接もオンラインで実施している。
- ・例年高校訪問をしているが、今年度は実施出来ていない。高校側の進路指導の時期もずれている状況。
- ・1か月に1回は、イベント的なオープンキャンパスの実施をして変化を作っている。
- ・SNSの強化に取り組んでいる。動画コンテンツの作成を検討中。
- ・学生たちのコロナ防止策については、慣れが出てきているが、改めて確認をすることが必要である。

アンケートについても古谷氏より資料共有により報告があった。

- ・アンケート全体として、プラスの意見が多く、学ぶ意欲を感じられる回答であった。その中では、自分の興味のない分野にもどう取り組んでいくか？伝えていくことが大切である。
- ・講師からのご意見で、オンラインと対面の違いとして、コミュニケーションがとりにくい状況があったという意見があった。特に1年生は難しさがあり、グループワークが多い授業については、厳しい状況もあったとのこと。
- ・多くの資料を学生たちに共有できることはいいことであった。
- ・授業の工夫として、現場の講師をお呼びして、より現場に近い授業を行うということをしていただいている。今後、実際の現場の備品をそろえて、それを使う授業を行っていく。

日本語学科の現状について、鐘氏から報告資料を元に報告があった。

- ・緊急事態発令時は休校とし、5月からオンライン授業を実施した。
- ・館内マスク着用、消毒薬設置、緊急時対応セットの設置、フェイスシールド配布、教室の座席配置の工夫などを行い、6月から対面授業に切り替えて授業を進めている。
- ・3月に帰国できなかった再入国の学生も今は無事入国をして14日間の待機期間を経て、授業に入っている。
- ・休校で実施できなかった授業時間については、夏休み期間を短縮し授業時間を確保した。

- ・学校イベントは、殆どが中止となっているが、日本語サポート、OBOG 進学説明会、オンラインを使って実施することができた。
- ・学生生活支援募金を行ない、学生達の申請、聞き取りを経て、学生に支援金を給付した
- ・定員の見直しを行い、現在の体制に応じた状況で学校運営を行っていく。

4. 学校評価（自己点検）について

田村氏より委員の方々へ、資料確認とご意見、ご提案の依頼がなされた。（説明は省略）

5. その他

協議、報告のあと、委員から以下の通り質問と意見が出された。

岩野委員より解答用紙紛失の詳細について質問があり、以下の意見が交わされた。

- ・紛失の状況について、ホテル学科の解答用紙 1 名分が紛失し、担当の先生からのご指摘があつて判明した。
- ・対象の学生および他学生、保護者、教員職員全員に状況の説明を行った。
- ・評価については、対象学生、担当教員と相談をし、日頃の状況から成績から判定することとした。
- ・2 度とこのようなことが起こらぬように、試験用紙の管理について再検討を行なった。
- ・本当にこれは、気をつけないといけないことである。原因として人手が足りなかったのか、他に原因があつたのか。実情としては、学籍番号と解答用紙を照らし合わせての確認を怠った作業ミスがあつた。
- ・人がやることなので、どこで、だれが、を確認することが必要。
- ・チェックリストで、文字に起こして、細心の注意を払って、2 重のチェックが必要。それぞれの対応者が皆で確認することのできるリストが必要。

岩本委員より、高等学院の行事实施について質問があり、以下の意見が交わされた。

- ・前期に予定していた修学旅行は中止となっている。特別活動のハイキングは中止とした。
- ・6 月市民救命士講習が全国的にできない状況で、須磨歴史ウォークという全く別のプログラムに変更して実施した。
- ・ワイワイまつりをオンラインで実施をした。後期が開講して、たった 1 週間で準備をした。生徒同士がよく取り組んだイベントとなった。
- ・可能な範囲で、行事運営をしている。
- ・岩本委員の学校は、委員会当日が運動会であつたとのこと。感染対策はいろいろとしなければならないことがあるが、生徒の顔を見ると、普段見ることのできない笑顔を見ることが出来た。行事の実施は教育的にも必要であり、大切な機会である。

松田氏より、定員変更についての説明が改めてなされた。

- ・定員充足率が厳しく言われる状況にありながらもその充足率が低い状況にある。健全な学校運営は充足率 80%と言われている。そのような状況もあり、理事会へ現状に合った学生定員数への変更を申し出て、承認がなされた。
- ・2021 年度より、日本語学科の 240 名を 160 名に、高等学院の 150 名を 90 名に変更する手続きを進めていく。
- ・なお、日本語学科は、法務省管轄下となり、40 名の学生に対して、1 名の専任を配置することも求められている。

追原委員より以下の質問があり、意見が出された。

- ・コロナウイルス感染症に関して、自分の身体は自分で守ろうということは当然、学生達に伝えていく必要があると思うが、同時に「周りの人の身体を守る」ということも伝えて欲しい。
- ・途中入国の学生について、14 日間隔離期間中の学生達のサポートについて質問があり、現在、入国後から職員が連絡を取り、授業はオンラインで受講しており、こまめに連絡を取り合っ

ている状態であることの報告があった。

- ・ 高等学院のランディングページのアドレスが共有された。https://kbym.jp/high_school/lp/

6. 閉会祈祷（岩野先生）

I. 閉会

以上

（記録：坂本孝司）